

集団がん検診を受けよう！その前に…

安全に集団がん検診を受けていただくために、以下に記載された「×検診が受けられない」「⚠ご注意ください」をご確認ください。

※自覚症状のある方は医療機関での受診をおすすめします。

- ⚠ 磁気や放射線の影響を受ける可能性があるため、インスリンポンプ、持続グルコース測定器を装着したままX線検査（肺がん検診、胃がん検診）を受診いただくことはできません。

肺がん検診

装置の体重制限135kgまで



- × 妊娠中、または妊娠の疑いのある方。→ 次ページ①

胃がん検診(バリウム検査)

装置の体重制限135kgまで

- × アレルギー（バリウム製剤、下剤によるもの）のある方。→ 次ページ②
- × 透析中、慢性腎疾患、心疾患で水分制限がある方。→ 次ページ③、④
- × 腸閉塞、腸捻転になったことがある方。→ 次ページ④
- × 現在、消化管系の炎症性疾患・潰瘍性疾患の治療をしている方。→ 次ページ⑤
- × お腹の手術（手術跡が残るもの）を1年以内にした方。→ 次ページ⑥、④
- × 妊娠中、または妊娠の疑いのある方。→ 次ページ①
- × 検査当日を含み、3日以上便秘が続いている方。→ 次ページ④
- × 検査当日、糖尿病の薬を服用又はインシュリン注射をした方。→ 次ページ⑦
- × 検査前夜、9時以降に飲食した方。→ 次ページ⑧
- × 意思疎通が困難な方・寝返り回転が困難な方。→ 次ページ⑨
- × 日常的に食物や飲物が飲み込みにくく、むせやすい傾向にある方。→ 次ページ⑩
- ⚠ 授乳中の方は下剤の成分により乳児が下痢をする可能性があります → 次ページ⑪



大腸がん検診




- × 生理期間中の方は採便しないでください。→ 次ページ⑫
- ⚠ 胃がん検診を受けられた方はバリウムの影響がありますので、少なくとも1週間の間をあけてから採便してください。

検診が受けられない、ご注意ください理由

- ① 被ばくによる胎児への影響を考慮し、安全性を確保するためです。
- ② アナフィラキシーショック（顔面蒼白、呼吸困難、血圧低下、意識消失、蕁麻疹 など）を起こす恐れがあります。
- ③ 水分制限がある場合、バリウム排出が困難になります。
- ④ バリウムが停滞し、便の排出が遅れるとバリウム塊による消化管の穿孔（穴が開く）など重篤な合併症を起こす恐れがあります。
- ⑤ 停滞したバリウム塊によって消化管の穿孔（穴が開く）や病状の悪化を招く恐れがあります。
- ⑥ 手術した周辺が癒着し、通過障害を起こす恐れがあります。
- ⑦ 検査当日食事をせずに服薬・注射をすると低血糖状態になりやすく、さらに発泡剤により消化器管内圧が上昇することで一過性の血圧低下を起こす恐れがあります。
- ⑧ 食べものが胃に残っていると、正確な検査となりません。
- ⑨ スピーカーからのアナウンスによる息止め指示（吸気、呼気）や、体位変換指示（仰向け、うつ伏せ、左右に回転、鋭角な頭低位）に従ってスムーズな反応が困難だと、安全確保の面や精度確保の面において、結果的に有益な検査となりません。
- ⑩ バリウムの誤嚥（気管や肺に誤って入ること）により、窒息・呼吸困難状態から低酸素血症につながる恐れがあります。更に重篤な合併症として、誤嚥性肺炎を発症する恐れもあります。
- ⑪ 授乳中の方用の下剤（ピコスルファートナトリウム水和物）を準備しておりますが、ご心配な方は産院にご相談ください。
- ⑫ 腸からの出血と月経による出血の区別ができません。

ご不明な点がございましたら

 石川県成人病予防センター（TEL 076-237-6262）
にお問い合わせください。